＜特別寄稿＞
長崎国際大学薬学部
正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

冬のボタニカルアート

長崎国際大学薬学部　正山征洋先生

第1回　ニンニク

ニンニクはユリ科に属する多年生草本で種子が出来ないため鱗茎（球根）で増殖します。漢名は大蒜（たいさん）で、古来より禅寺には「葷酒山門に入るを許さず」と記され、お寺でお坊さんが食することはご法度と言われてきた程強壮作用が強いことは周知のことです。種々の健康食品に用いられており多くのエビデンスが出されています。最もよく知られているのはアリシンとビタミンB1が結合して安定化したアリナミンが作られたことでしょう。

また、アメリカの国立がん研究所によるデザイナーフーズの頂点に位置づけられたことも有名です。

疫学調査によりニンニクを良く食べるグループは食べないグループに比べ明らかに消化器がんが少ないことが明らかになっています。

このように料理ばかりではなく健康維持に欠かせないニンニクですが、毎日食べ続けると貧血を起こしますので「過ぎたるは猶及ばざるが如し」に 該当する食品でもあります。

本画は1800年代初Peirre-Jean-François Turpinにより輪郭をエッチングで印刷し手彩色されたもので、当時の学生さんが勉強しメモした痕跡が伺える作品です。ニンニクの学名がAllium sativum L.となっています。Alliumは古いラテン語でニンニクを意味し、語源[alere]匂いから、sativumは栽培の、と言う意味です。L.は命名者がリンネであることを示しています。

このように学名は多くの事を物語ってくれます。